

# 考古かながわ

第26号

2003年3月31日

## 高座郡衙跡の保存要望書について

神奈川県考古学会は下記要望書を神奈川県知事・神奈川県議会議長・神奈川県教育長に提出し、県政記者クラブにも写しを送付しました。同様の要望書は、相模の古代を考える会、西相模考古学研究会、神奈川地域史研究会、

西方遺跡を考える会・堤貝塚に学ぶ会・文化財を学習する会からも提出されました。12月7日付の新聞発表の通り、神奈川県教育委員会は遺跡を保存することを決定しました。この英断は高く評価されましょう。今後は国の史跡に指定され、整備の後、広く活用されるようになることを願ってやみません。

下寺尾西方遺跡  
(茅ヶ崎北陵高等学校)発掘全体図

(財)かながわ考古学財団2002.10.13現地見学会資料



2002年10月25日

神奈川県知事 岡崎 洋 様  
神奈川県議会議員 小島 幸康 様  
神奈川県教育委員会 教育長 曾根 秀敏 様

神奈川県考古学会  
会長 寺田 兼方

## 西方A遺跡保存に関する要望書

茅ヶ崎市下寺尾に所在する神奈川県立茅ヶ崎北陵高等学校の建替えに伴い西方A遺跡の発掘調査が進められ、神奈川県教育委員会の委託により発掘調査を実施している（財）かながわ考古学財団の発表によってその概要が明らかにされた。

古代(7世紀末から8世紀初頭)の官衙は高座郡衙と推定され、県内では都筑・鎌倉・橘樹の各郡衙に続いて4例目となる。しかも郡庁域と正倉域がともに検出され、南西に下寺尾寺院跡などが存在することから、この遺跡一帯は奈良時代の高座郡の行政中枢を把握するために欠かせない地区であることが明らかになった。郡庁域では全部ではないが正殿・脇殿・後殿を検出、正倉域では総柱建物4棟が確認され、長大な掘立柱建物も見つかっている。これらの遺構は重複関係によって時期が極めて絞りこまれている点でも重要である。また、官衙に若干先行して住居址が展開しており、その後、官衙が移動した8世紀中葉まで竪穴住居・掘立柱建物のほか鍛冶工房が認められる。これらの遺構と官衙がどのような関係をもつかは今後に委ねられる課題であるが、官衙機能を考究する上でも貴重である。

また、弥生時代中期後葉(宮ノ台式)の環濠を伴う集落は、県内最大と評価される横浜市折本西原遺跡に匹敵する可能性がある。遺物としては県内最大の板状鉄斧と勾玉(未製品)のほか大陸系磨製石斧が出土しており、土器には時期差が認められて、この集落が長期にわたって営まれていたことが判明した。

さらに縄文時代前期(黒浜式)、海進が最も進んだ頃の西方貝塚に続く竪穴住居も検出されている。

今回の調査によって重層的に発見されたこれら一連の遺跡は、学術的に極めて重要なばかりでなく、郷土神奈川、ひいては日本にとってもかけがえのない文化遺産である。

したがって、当学会としては高等学校教育の重要性も十分に認めるところであるが、遺跡はその場所にあつてこそ意義があるものであり、この度の校舎改築については抜本的な見直しを行い、西方A遺跡の古代・弥生時代・縄文時代の遺構をこれ以上損傷することのないよう配慮されることを要望するものである。加えて国の史跡に指定される要件は十分備わっており、積極的に指定に向けても地元自治体と協議されることを要望する。結果として公園化されるなど整備復元され、長きに渡って多くの方々に活用していただけることを願うものである。

以上

## 第26回神奈川県遺跡調査・研究発表会を終えて

大塚 眞 弘

去る2002年11月24日（日）に本会と横須賀市教育委員会・横須賀考古学会との共催で横須賀市文化会館で第26回神奈川県遺跡調査・研究発表会を開催した。

今回は初めて三者共催という形で実施したわけである。筆者は本会発表会担当ではないが、上記三者共に関わる者として、ここに私見を交えて報告する。

結果として、参加者はあまりにも少なかった。同じ横須賀市文化会館内のギャラリーでは、横須賀考古学会主催の「赤星博士生誕百年記念展」、隣接する横須賀市自然・人文博物館では、「三浦半島の横穴墓」展が開催されていたにもかかわらずである。数が多ければ良いと言うものでもなかろうが、せっかく県内の昨年の調査の成果をまとめて知ることができる機会であるのだから、多いにこしたことはなからう。

この原因として考えられるのは、地理的条件は別にして、まず、会員外への広報活動が行われなかったことが挙げられる。前年までどのように行っていたのか知らないが、筆者が参加した今回の準備の集まりでは話題にならなかった。

準備の体制は実質本会発表会担当の加藤信夫・天野賢一・小池聡・大村浩司の各氏に、横須賀市教育委員会の佐藤明生氏と横須賀考古学会事務局特別事業担当の中村賢一郎氏・筆者が加わる形となった。筆者の記憶では、これらのメンバーが一堂に会することはなかった。

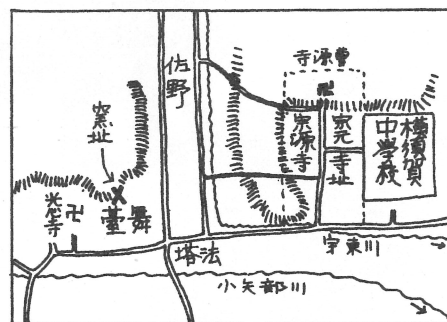
また、三者共催の実行委員会など準備体制の上部組織が確立されなかったこと、三者の役割分担が明確に文章などで表せなかったことなど準備不足として指摘できよう。我々準備の各メンバーに作業領域について、とまどいとか遠慮とかがあったのか、また相互に依頼心が強かったのか。離れ

た所にいるメンバー相互の連絡など共催の難しさを痛感する。

この催しは、言うまでもなく本会の事業であり、三者共催という形であれ、本会が主管団体であることは自明である。今後十分反省し、共催の場合の問題点をはっきりさせ、次回以降の準備体制を考える必要があるだろう。

当日の講演会の講師・川上久夫氏の赤星博士を紹介する言葉にあったように我々考古学を学ぶ者達にハングリー精神が欠如してきたことは否定できない。学問だけでなく、本会の運営にあたっては、神奈川県考古学会を構成する我々会員一人一人が主体的に考え、発言し、行動することが必要であろう。他人事のように述べるのは不適切で、まず筆者が当事者として猛省すべきであると考えている。

ともあれ、赤星直忠博士生誕百年の年に、博士が生まれ育ち、そして考古学研究の中心となったフィールド三浦半島で、神奈川県遺跡調査・研究発表会が開かれ、三浦半島内三市一町と横須賀考古学会では博士の研究に因んだ展示会が行われ、三浦半島に多くの考古学研究者が訪れていただいた。また、本年に入って、3月23日の考古学講座では、岡本孝之氏はじめ、多くの発表者から博士に対する正当な評価がなされ、会員各自が認識を新たにすることができたと思われる。三浦半島に在住し、博士の研究姿勢を継承したいと考える者たちにとって嬉しい限りであり、また、意を新たにすることである。



図略近附址寺元宗

2002年10月19～20日 見学会

## “奥松島の貝塚群を訪ねて”に参加して

白 勢 順 子

「とってもよかった！」それが率直な感想です。朝早く宿の周辺を散歩した時の空気のおいしさ、思わぬところに落ちていた石器をひろったときの喜び……。今でもまだ夢の中のような感じです。

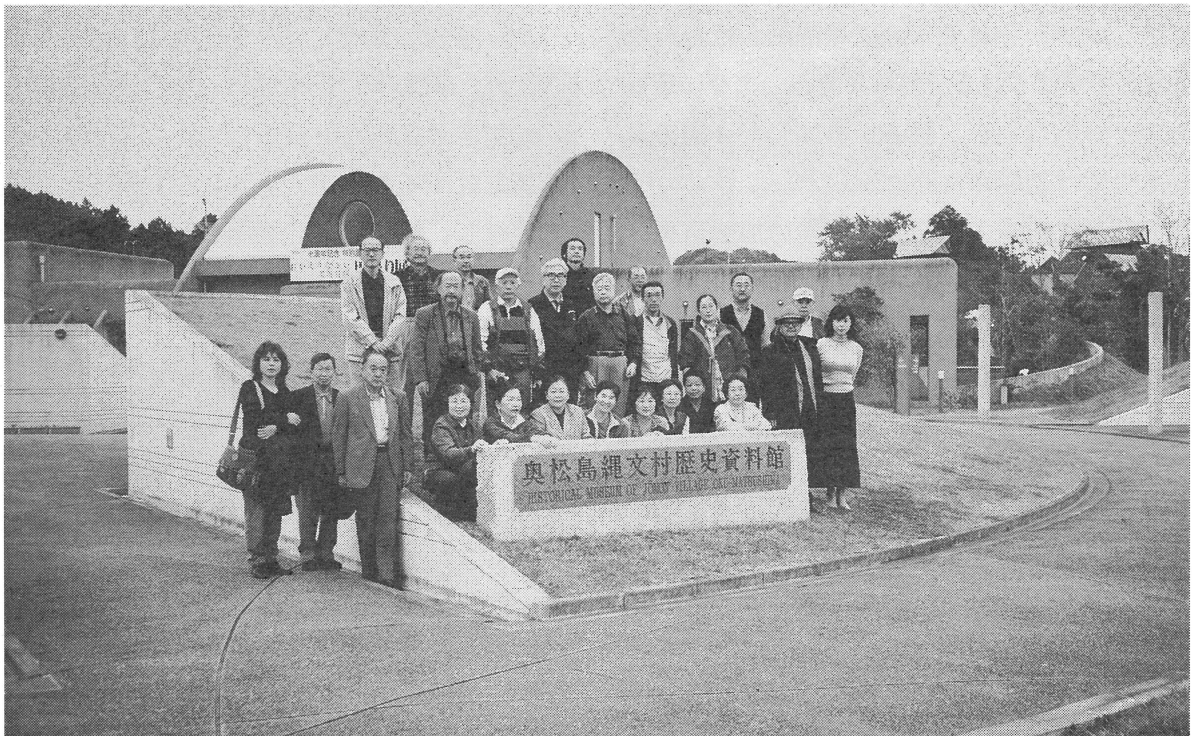
最初の日の夕食時に自己紹介の時間がありました。考古学に夢をもたれた参加者の皆様それぞれが、その思いを熱く語ってくださるのを聞きながら、年齢を問わず若いも若きも同じ興味を持っているということはすてきなことだと思いました。家族を置いて、一泊旅行に出ることというのはなかなかできませんが、今回、思い切って参加させていただいて本当によかったと思います。

バスの中では、「百聞は一見に如かず」が口ぐせの須田さんが貝塚についての説明をしてくださいました。お話を聞いたあとの見学でしたので、よりいっそう興味と理解が深まりました。残念な

がら見学時間は短く、走って見て回っても全部は見れなかったという残念な思いもありますが、短い日程の中で一度にこれだけたくさんの見学ができたのですからよかったと思います。

東北歴史博物館では、仙台湾と東北各地の貝塚から出土した銚や釣針などの漁具を主に見ました。七ヶ浜町資料館では大木田貝塚から出土した装飾品、漁具、土器を見学。現在は広々とした史跡公園になっている大木田貝塚に着いた時には、すでに日が暮れかかっていた。でも、探せば白い貝や骨片が土の中から顔を出しています。私も下を向いて何か落ちてはいないだろうかと思いつき、貝塚の場所を歩いてみました。宿に向かうバスの中からは暗くて外の景色は見えませんでした。奥松島の宮戸島という島の中にある“嵯峨ビーチホテル”に到着しました。そして、食事後に冒頭にご紹介した自己紹介があったのでした。

二日目の最初の目的地である奥松島縄文村歴史博物館では、学芸員の方に里浜貝塚についてくわしく説明をしていただきました。「松島は川がないため地形が変わらず、今でも至る所に縄文的な



田代昭夫撮影



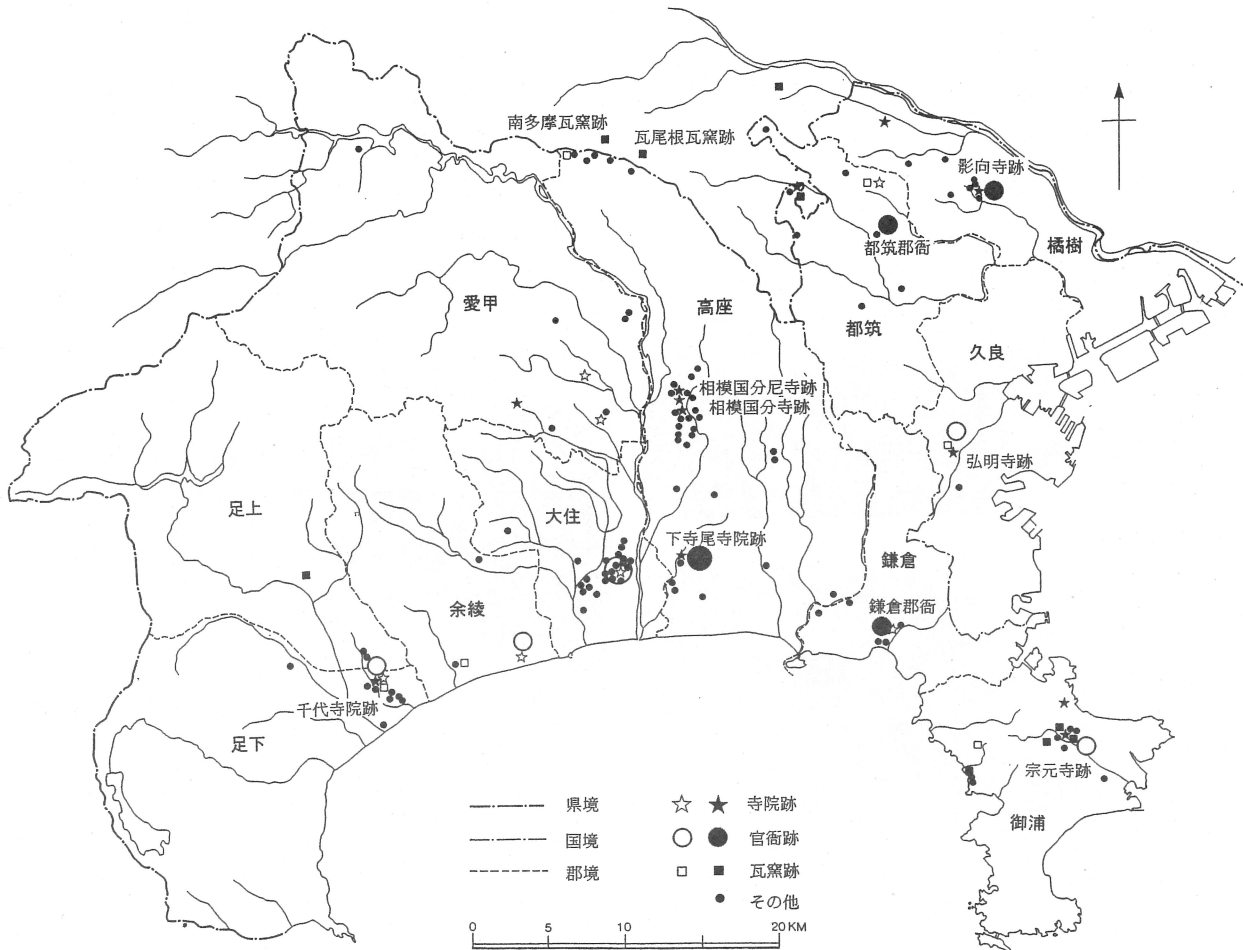
風景をみることができます」というお話のあと、実際に貝塚に行き、「大正時代に松本彦七郎博士によって調査された地点はここです」と教わったり、薄くて赤っぽい製塩土器の破片を今でも拾うことができる、「縄文時代の塩作りの作業場」に案内していただきました。発掘調査の結果、頭と背骨をとったイワシを塩づけにしたものと、山形の最上川周辺で多く採れる石材（頁岩）とを交易していたのではないかと……と、推測できるということでした。

奥松島縄文村歴史博物館では、開館10周年記念として国の重要文化財に指定されている、里浜貝塚西畑地区の出土品の里帰り展が開かれており、里浜貝塚から出土した縄文人骨、土器、漁具、装身具などを見ることができました。次の見学先の石巻市文化センターでは、故毛利総七郎氏が集め

られたアイヌの関係資料や沼津貝塚などに関する「毛利コレクション」と呼ばれる貴重な資料を見ることができました。最後の見学場所は沼津貝塚でした。昼食のために場所をお借りした公民館の片隅には、沼津貝塚から出土した個人所蔵の石匙などの遺物が、ガラスケースの中に展示されていました。

今回、あまり一度に駆け足でいろいろなものを見たので、頭の中はまだ混乱状態ですが、大満足です。

役員の方々や参加された皆様、そしてバスの運転手さんのさわやかな笑顔にささえられ、私は思い出深い貴重な経験をすることができました。ありがとうございました。また、よろしく願い致します。



神奈川県内の古代寺院と官衙跡の分布図

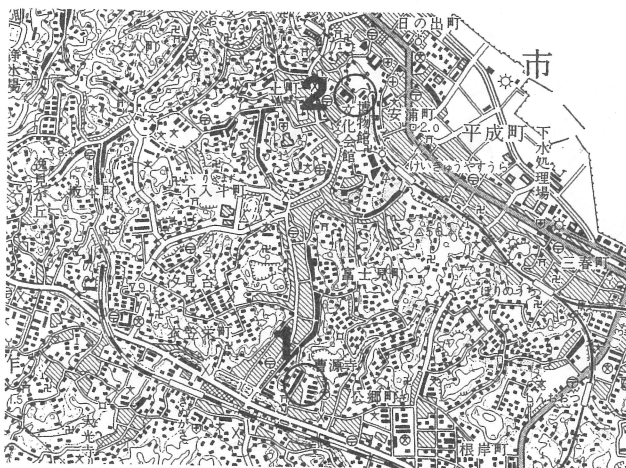
## 神奈川県古代寺院案内

岡本孝之

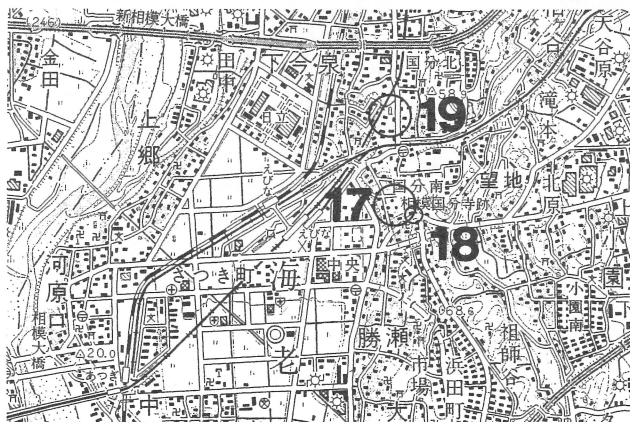
神奈川県内の古代寺院と官衙跡の研究は近年になって急速な展開を見せだした。本会の開催した講座『かながわの古代寺院』によるところも大きいと自負したい。そこでさらに多くの人の関心を募るため、県内古代寺院を巡礼すべく案内したい。御浦郡宗元寺跡（横須賀市）

横須賀線衣笠駅で下車し、15分ほど歩いて横須賀高校方面に向かう。高校の北側丘陵上に曹源寺があり、その南側一帯が1宗元寺跡である。移動された礎石を境内で見ることができる。伽藍の復元は赤星直忠先生以来多くの試みがある。曹源寺の参道からは瓦の窯跡が発掘されており、西側の丘の裏には赤星先生の旧宅がある。

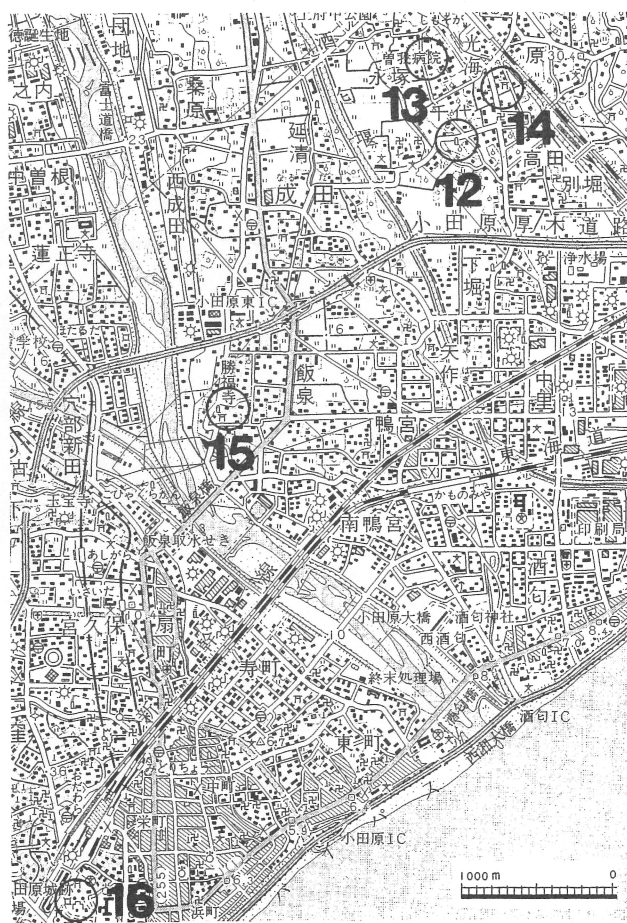
横須賀中央駅方面行きバスで2横須賀市人文博



横須賀市



海老名市



小田原市

物館（0468-24-3688）に向かう。博物館や文化会館のある一帯が深田廃寺の地点であるがこちらは何も残っていない。博物館には各地の瓦などの出土品が展示されている。赤星先生の作成された復元模型は事前に手続きすれば見学できる。

赤星直忠博士文化財資料館（0468-57-7626）でも瓦などの遺物を見れ、赤星先生と近年の成果をまとめた『古代寺院宗元寺跡』を入手することができる。逗子駅からバスで佐島入口下車、徒歩2分。近くの横須賀市西部行政センターの公民館にも2点瓦が展示されている。

御浦郡衙跡は発見されていない。現在の久里浜湾を古代の御浦と想定する研究者が多くなり、久里浜の八幡神社遺跡を津に関連する遺跡と見たい。高座郡下寺尾寺院跡（茅ヶ崎市）

下寺尾寺院跡へは相模線香川駅から茅ヶ崎北陵高校を目指して20分ほど歩くことになる。途中湘南ビールの脇を通るがそれは帰りのお楽しみ。

高校のグラウンドからは4高座郡衙跡が発見されて相模国の古代史の検討が進んだが、3下寺尾寺院跡は台地南下の砂丘上にあり、1957年に立てられた大きな石碑と説明板がある。毎年、確認の発掘が進められている。1978年調査などの遺物類は茅ヶ崎駅南口徒歩15分にある5茅ヶ崎市文化資料館（0467-85-1733）で見ることができる。

かながわ考古学財団は秋の公開セミナーで高座郡衙を取り上げる。茅ヶ崎市遺跡調査発表会では下寺尾地区の発表が集中して盛り上がる。

#### 大住郡四之宮寺院跡（平塚市）

国府が平塚にあったとする説はもう通説となった。国衙跡の所在地については平塚駅に近い6平塚八幡付近にあったとする沼田頼輔説と7四之宮を想定する小島弘義・明石新説などがある。寺院跡については日野先生の発掘された8下郷寺院跡（高林寺境内）は否定的で、国司館などではないかと推定されている。市内出土の遺物は10平塚市

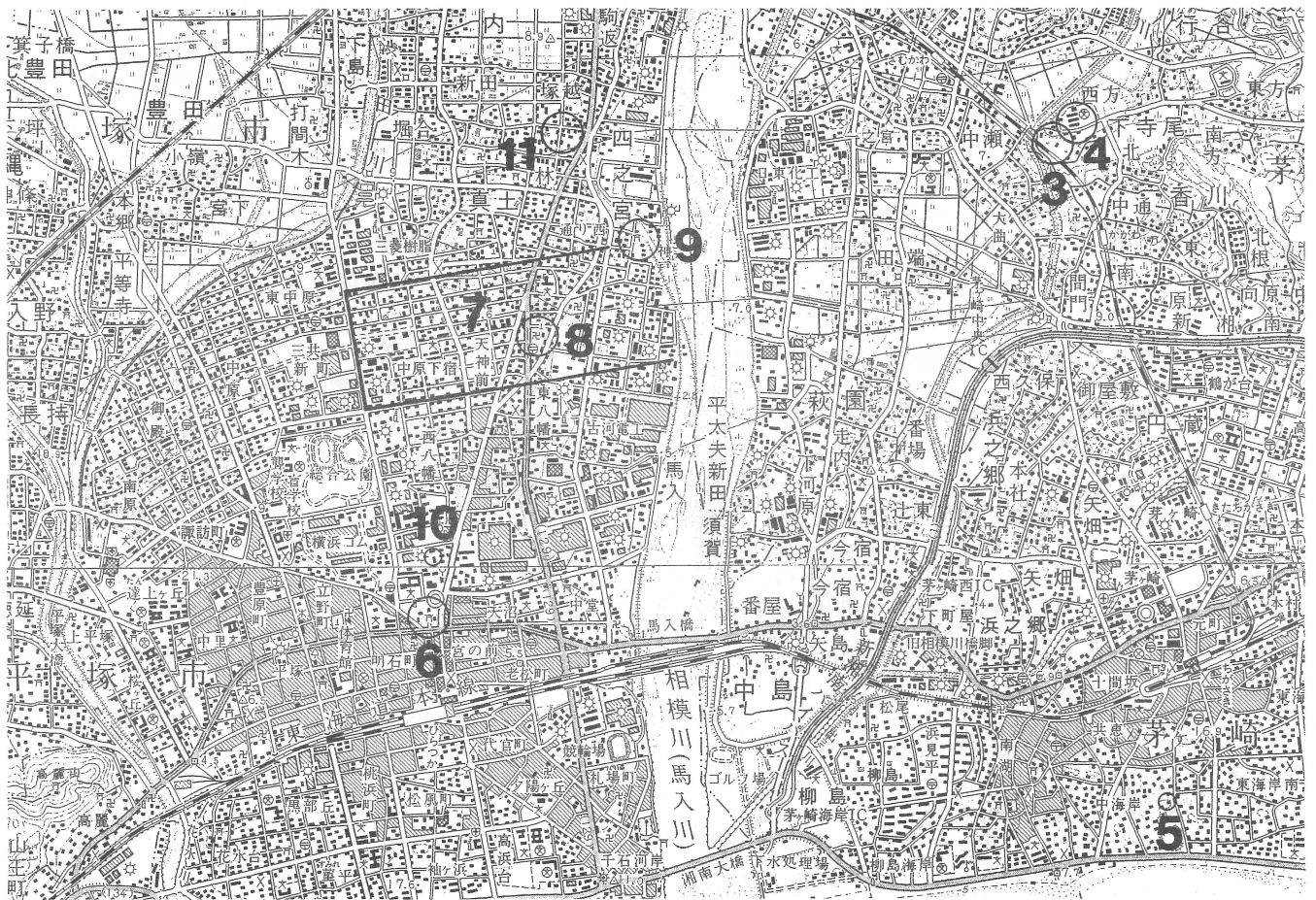
博物館（0463-33-5111）で見学できるが、注意すべきは9前鳥神社に展示されている瓦類である。これは四之宮の北部の11上郷出土とされるものでその隣接する北側には長者窪という地名がある。密かに国府跡を想定しているところである。

#### 余綾郡吹切遺跡（大磯町）

余綾郡の寺院跡と推定される遺跡は国府本郷にある吹切遺跡であるが解明は進んでいない。石野瑛氏が発見した礎石なども再検討しなければならない。山田一男氏の採集した瓦類は大磯町郷土資料館（0463-61-4700）に展示されている。資料館は大磯駅からバスで城山公園前下車。

#### 足下郡千代寺院跡（小田原市）

JR御殿場線の下曽我駅から徒歩15分であるが、鴨宮駅から条里の道をたどって北に進む道がお勧めである。小田原厚木バイパスをくぐった辺りからの眺めが良い。台地上に上がり忠魂碑のある塔跡推定地の台の塚には12千代寺院跡の説明板があ



平塚市・茅ヶ崎市

る。その北側に1958年に発掘調査された講堂跡推定地がある。

忠魂碑から東に向かい交番のある四つ角を北に進み、曾我病院付近にでたところが木簡の出土した13下曾我遺跡である。ここを相模国府跡とみる説もあったが、最近の発掘ではそのような遺構は発見されていない。千代台地の東側にある14三島神社の地点が良いと思っているが周辺から瓦が採集されている程度で根拠はまだ弱い。

千代寺院跡は15飯泉観音・勝福寺に移ったとされるがそこまでは遠い。出土品は小田原城内の16郷土文化館(0465-23-1377)に展示されている。下曾我遺跡の出土品は東京都渋谷区の国学院大学考古学資料館(03-5466-0249)に展示されており見学することができる。

#### 相模国分寺跡(海老名市)

小田急線と相鉄線の海老名駅から東方の台地上にある史跡までは徒歩10分ほどである。途中やや小型に復元された七重の塔がある。17国分寺跡は随分と整備されてきた。やりすぎという批判もあるが海老名市のやる気が見える。

国分寺跡の東南隅に18温故館(046-233-4028)があり、国分寺の出土品を見ることができる。昨年は県内出土の瓦類を集めた特別展『相模国分寺創建』が開かれ新しい知見を得た。

国分寺の北方、相鉄線の北側に19国分尼寺跡があり、ここも史跡指定と金堂跡などの整備が進められている。

武蔵国 横浜、川崎両市内には弘明寺や影向寺など現在に引継がれる寺院がある。これらについては4月以降に両市の博物館において興味ある企画展が提携して開催されるのでぜひ見学されたい。神奈川県立歴史博物館では国分寺跡、宗元寺跡、千代寺院跡などの鬼瓦など、神奈川県史を学ぶことができる。

春は花とお寺めぐりの季節です。『かながわの古代寺院』を手に出かけてみませんか。

#### 情報

川崎市市民ミュージアム 044-754-4500  
企画展 古代を考える I 『郡の役所と寺院』  
4月19日～6月15日

横浜市歴史博物館 045-912-7777  
特別展 『古代日本 文字のある風景  
—金印から正倉院文書まで—』  
4月5日(土)～5月11日(日)

企画展 古代を考える III 『文字との出会い  
—南武蔵・相模の地域社会と文字—』  
5月24日(土)～7月6日(日)

府中市郷土の森博物館 042-368-7921  
企画展 古代を考える II 『武蔵の国府と国分寺』  
4月26日～6月22日

神奈川県立歴史博物館 045-201-0926  
特別展 『ペリー来航150周年記念 黒船』  
4月26日(土)～6月15日(日)

特別展 『関東大震災—震災・復興・防災—』  
7月26日(土)～9月7日(日)

特別展 『神奈川県文化財保護条例制定50周年記念  
考古にみる国・県指定重要文化財展』  
10月18日(土)～12月7日(日)

#### 2003年度総会の案内

6月7日(土) 9:00～12:00

県民サポートセンター301会議室

#### 2003年考古トピックス

弥生・古墳 伊丹 徹氏・古代 大村浩司氏  
中世 未定 ・近代 野内秀明氏

#### 考古かながわ 第26号

発行 神奈川県考古学会

発行日 2003年3月31日

編集者 岡本孝之・近藤英夫・安藤文一・  
小林義典・渡辺 務

印刷 (有)湘南グッド

発行者 神奈川県考古学会会長 寺田兼方  
〒251-0043

藤沢市辻堂元町4-17-4 やよい荘102  
郵便振替 00240-9-71208